

**平成 30 年 7 月豪雨災害からの復興に関する  
アンケート調査**

**(結果速報)**

**平成 30 年 12 月**

**総 社 市**

# 調査概要

## ■調査目的

本アンケート調査は、行政と市民・地域が意識を共有し、早期の復興と地域の将来を見定めた安全・安心で活力あるまちづくりを推進する方向性を示す「総社市復興ビジョン」を作成するための参考とすることを目的とします。

## ■調査方法

① 対象者	・被災した市民（世帯主）452名、罹災台帳より抽出 ・18歳から75歳（平成30年11月1日時点）までの市民2,500名から無作為抽出
② 調査方法	郵送により調査票を配布・回収
③ 調査期間	平成30年11月21日～平成30年12月3日（14日間）

## ■回収状況

配布先	配布数 (A)	回収数 (B)	回収率 (B/A)
被災した市民	452	287	63.5%
その他の市民	2,048	957	46.7%
合計	2,500	1,244	49.8%

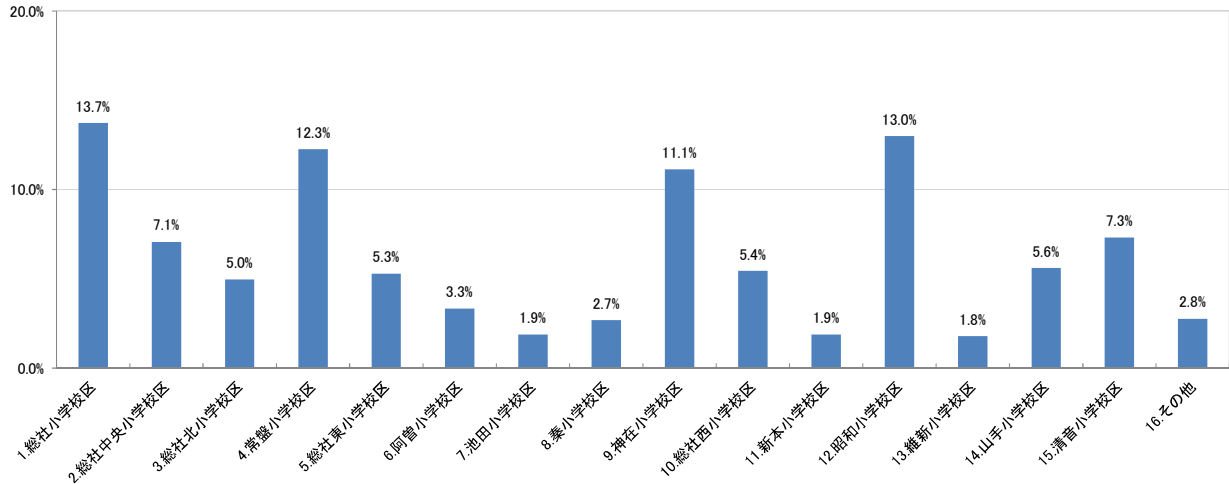
### 【報告書中の表記について】

- ・表やグラフの割合「%」は、未記入などの「不明」「非該当」を除いた回答者数に対する割合を示しています。
- ・回答者の割合（%）は、小数点以下第2位を四捨五入した数値としています。そのため、各回答の合計が100.0%にならないことがあります。
- ・複数回答の設問では、回答数を示しております。

## I. あなた自身の状況についてお伺いします

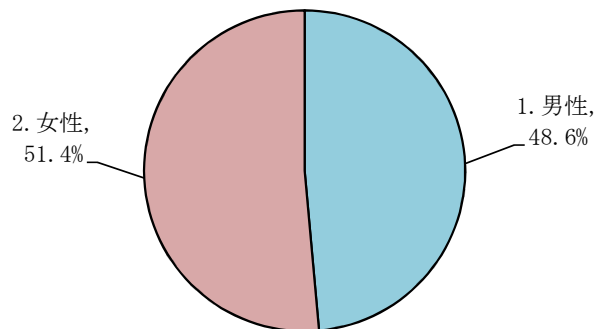
### ① 災害発生時の居住地 (n=1232)

回答者の災害発生時の居住地は、「1. 総社小学校区」が13.7%と最も多く、次いで「12. 昭和小学校区」が13.0%、「4. 常盤小学校区」が12.3%となっている。



### ② 性別 (n=1235)

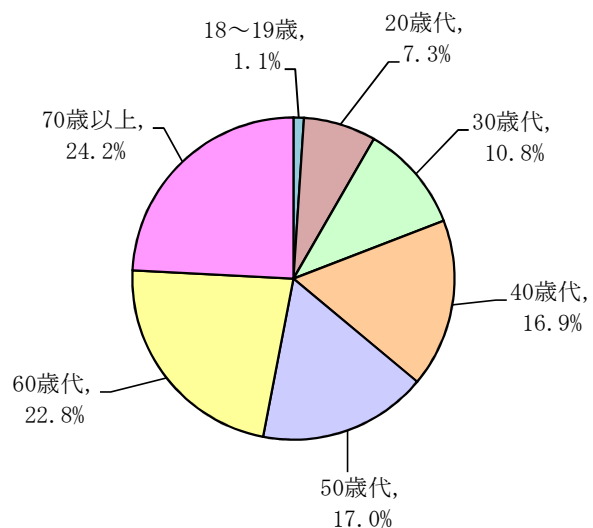
回答者のうち、男性が48.6%、女性が51.4%となっている。



### ③ 年代 (n=1237)

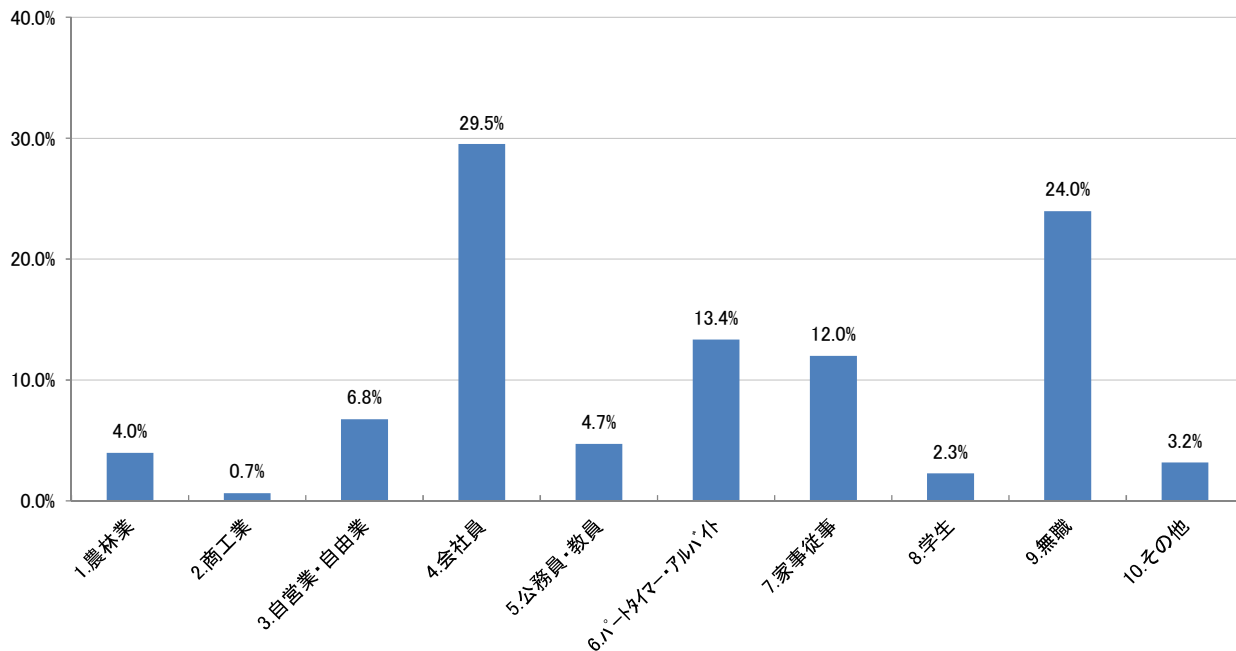
回答者の年代は、70歳以上が24.2%と最も多く、次いで60歳代が22.8%、50歳代が17.0%となっている。

60歳代以上が約半数を占めている。



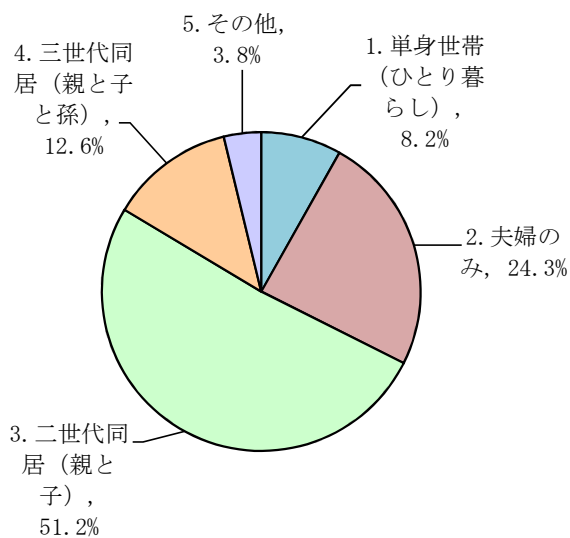
④ 職業 (n=1232)

回答者の主たる職業は、「4. 会社員」が 29.5%と最も多く、次いで「9. 無職」が 24.0%、「6. パートタイマー・アルバイト」が 13.4%となっている。



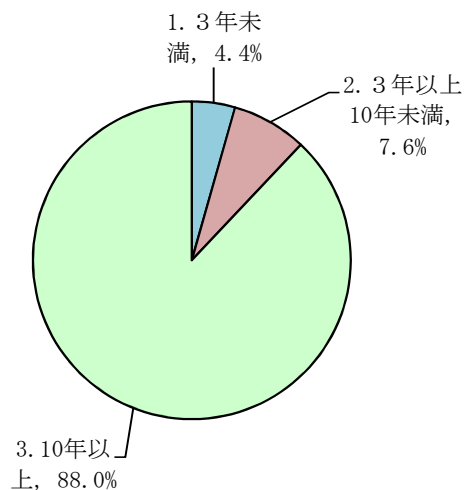
⑤ 家族構成 (n=1237)

回答者のうち、「3. 二世世代同居 (親と子)」が 51.2%と最も多く、次いで「2. 夫婦のみ」が 24.3%、「4. 三世世代同居 (親と子と孫)」が 12.6%となっている。



## ⑥総社市内での居住年数(n=1231)

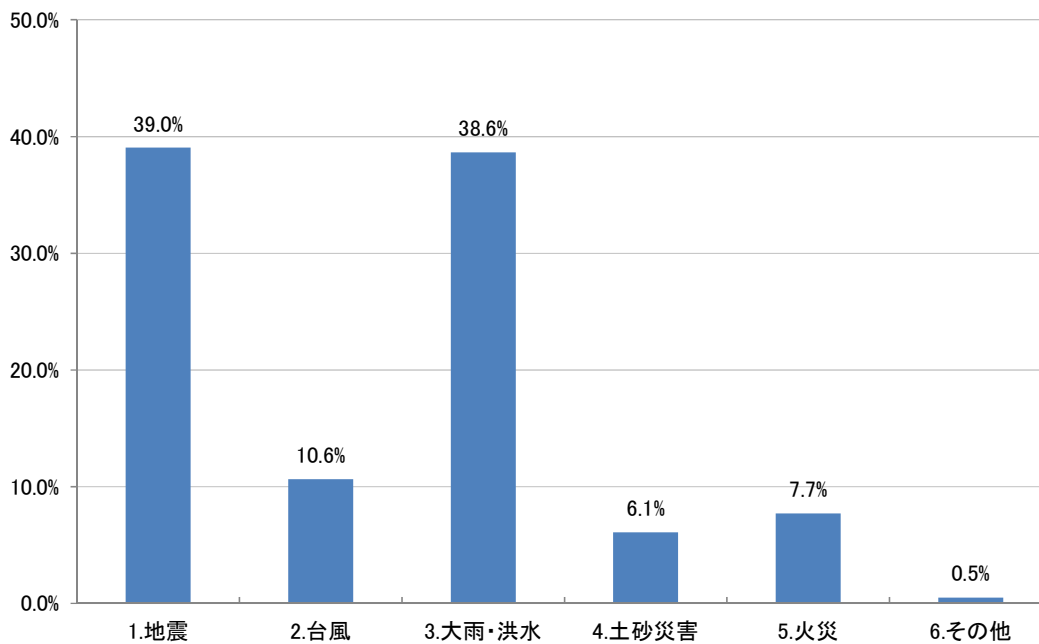
回答者の総社市内での居住年数は、「3. 10年以上」が88.0%を占めている。



## Ⅱ. 防災対応・防災意識についてお伺いします

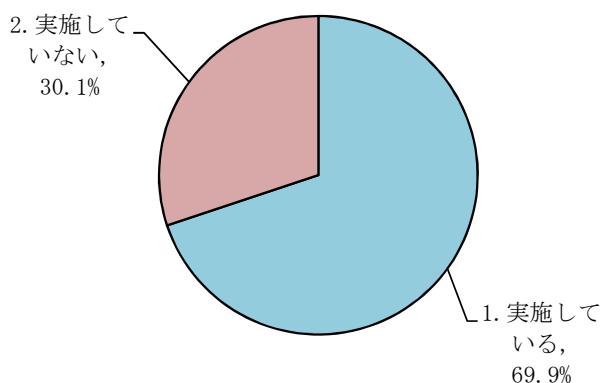
問1 あなたにとって、最も備えが必要と思う災害は何ですか。(一つに○)(n=1264)

回答者が最も備えが必要と思う災害は、「1. 地震」が39.0%と最も多く、次いで「3. 大雨・洪水」が38.6%、「2. 台風」が10.6%となっている。



問2 ご家庭で、何か防災対策を実施していますか。(一つに○)(n=1226)

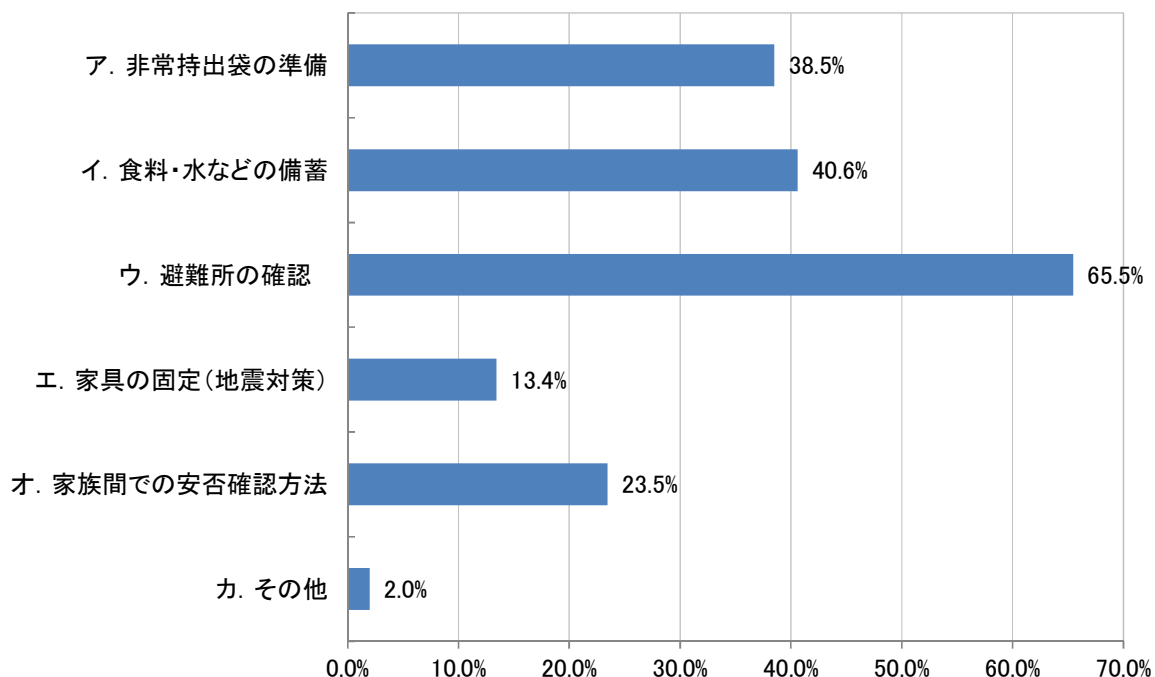
回答者のうち、ご家庭で防災対策を実施しているのは69.9%であり、実施していないのは30.1%となっている。



問2-1 実施している場合は、ア～カのうちあてはまるもの全てに○をつけてください。(n=1555)

前問で、実施しているとした回答者(857人)の実施内容は、「ウ. 避難所の確認」が65.5%と最も多く、次いで「イ. 食料・水などの備蓄」が40.6%、「ア. 非常持出袋の準備」が38.5%となっている。

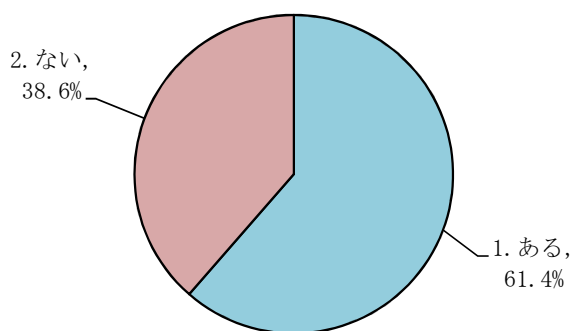
避難所の確認を行っている人は、半数を超えている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問3 自宅周辺の地形、危険箇所などを確認(地図上、目視など)したことがありますか。(一つに○)  
(n=1236)

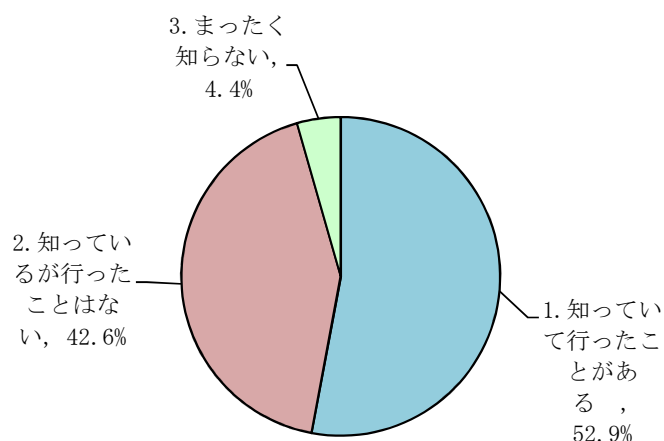
回答者のうち、自宅周辺の地形、危険箇所などの確認を行ったことがあるのは61.4%であり、行ったことがないのは38.6%となっている。



問4 災害時に開設される自宅に近い避難所を知っていますか。(一つに○)(n=1239)

回答者のうち、災害時に開設される自宅に近い避難所に「1. 知っていて行ったことがある」が52.9%であり、「2. 知っているが行ったことはない」が42.6%となっている。

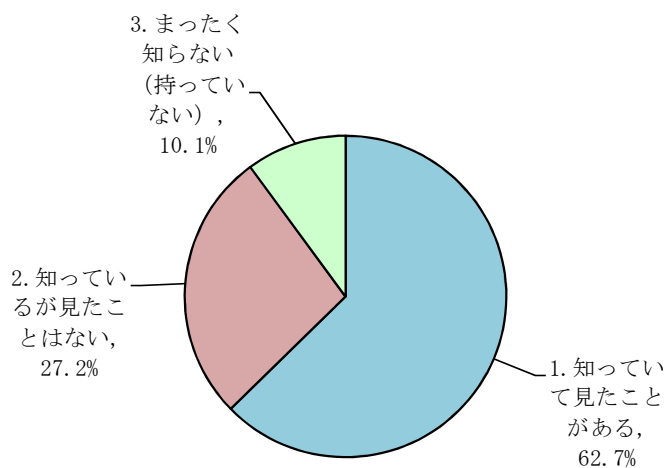
知っているが9割以上を占めている。



問5 総社市ハザードマップ(洪水・土砂災害・地震)を知っていますか。(一つに○)(n=1227)

回答者のうち、ハザードマップを「1. 知っていて見たことがある」が62.7%であり、「2. 知っているが見たことはない」が27.2%となっている。

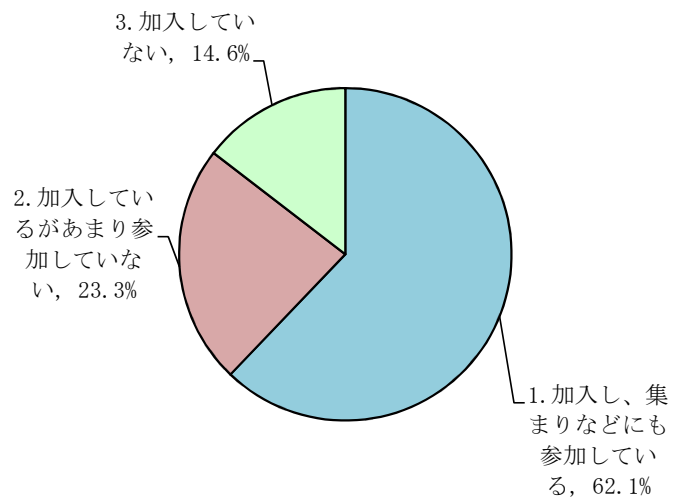
知っているが約9割を占めている。



問6 地域の町会(自治会、町内会)に加入していますか。(一つに○)(n=1223)

回答者のうち、地域の町会(自治会、町内会)に「1. 加入し、集まりなどにも参加している」が62.1%であり、「2. 加入しているがあまり参加していない」が23.3%となっている。

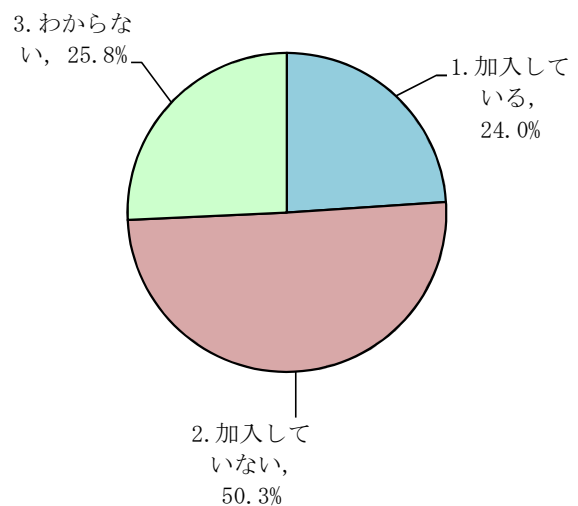
8割以上が自治会、町内会に加入している。



問7 自主防災組織に加入していますか。(一つに○)(n=1223)

回答者のうち、自治防災組織に「1. 加入している」のは24.0%で、半数以上が加入していないとなっている。

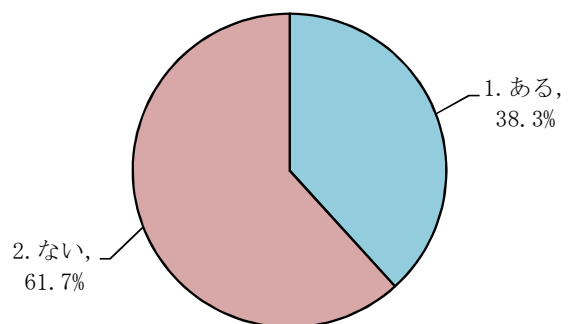
自主防災組織は、町会単位で組織化している場合が多いものの、問6の加入している割合と乖離があることから、自身が自主防災組織に加入していることの認識が低いといえる。



問8 今までに、地域や市が行った防災に関する訓練や講座に参加したことがありますか(防災訓練、消火器訓練、防災出前講座、救急法講習会など)。(一つに○)(n=1226)

回答者のうち、地域や市が行った防災に関する訓練や講座に参加したことがあるのは38.3%である。

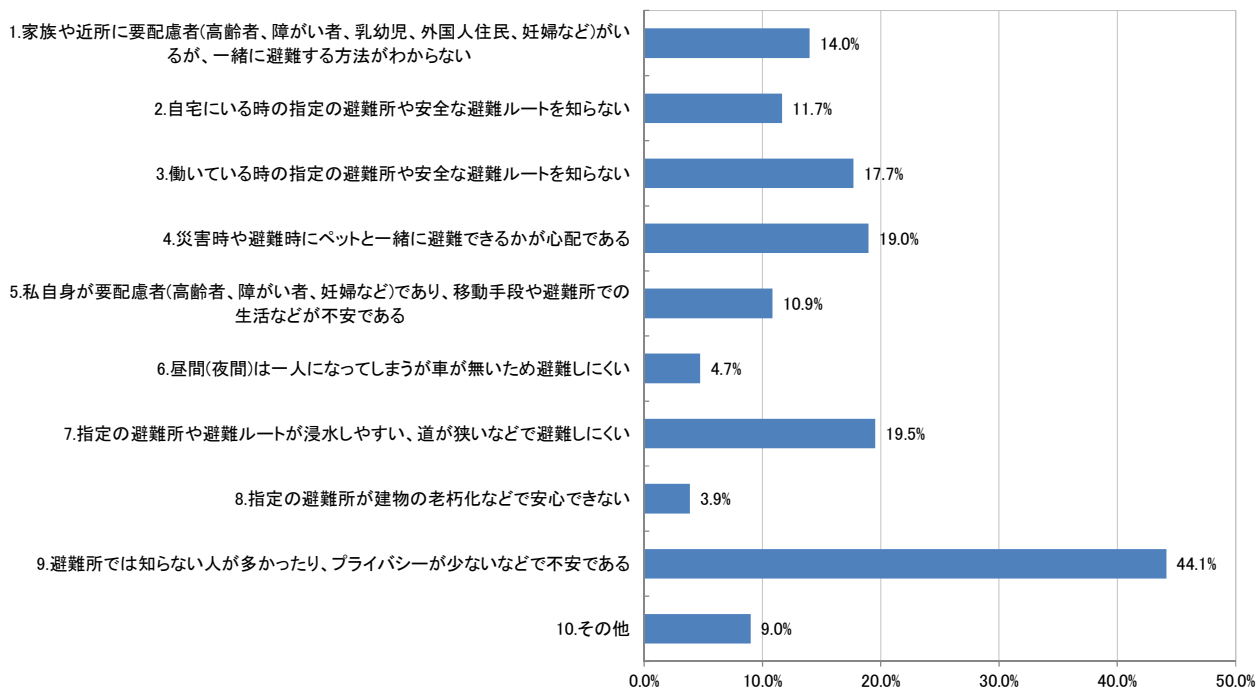
6割以上が参加したことがないとしている。





問9 災害時や避難する上で困っていること、気になっていることはありますか。(あてはまるもの全てに○)(n=1921)

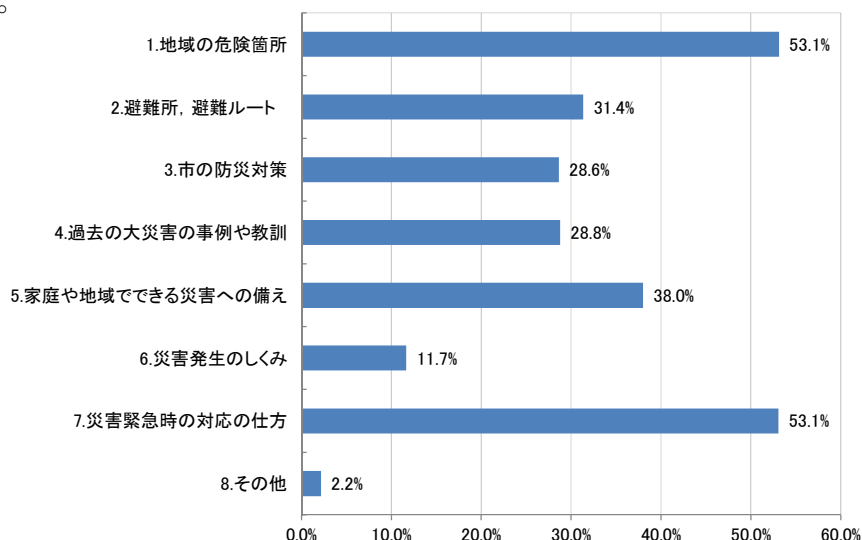
回答者が災害時や避難する上で困っていること、気になっていることは、「9. 避難所では知らない人が多かったり、プライバシーが少ないなどで不安である」が44.1%と最も多く、次いで「7. 指定の避難所や避難ルートが浸水しやすい、道が狭いなどで避難しにくい」が19.5%、「4. 災害時や避難時にペットと一緒に避難できるかが心配である」が19.0%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問10 防災について日頃からどのような知識や情報を得たいですか。(あてはまるもの全てに○)(n=3070)

回答者が防災について日頃から得たい知識や情報は、「1. 地域の危険箇所」、「7. 災害緊急時の対応の仕方」が53.1%と最も多く、次いで「5. 家庭や地域でできる災害への備え」が38.0%となっている。



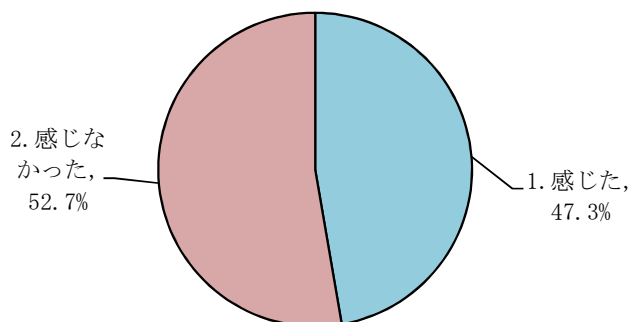
※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

### Ⅲ. 平成 30 年 7 月豪雨(西日本豪雨)時のことについてお伺いします

問 11 平成 30 年 7 月豪雨時に生命の危険を感じましたか。(一つに○)(n=1233)

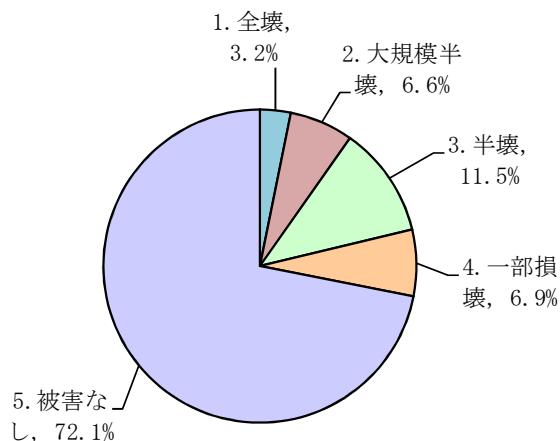
回答者のうち、平成 30 年 7 月豪雨時に生命の危険を感じたのは 47.3%であり、感じなかったのは 52.7%となっている。

約半数の人が生命の危険を感じている。



問 12 お住まいの被害状況(り災証明の内容)を教えてください。(一つに○)(n=1247)

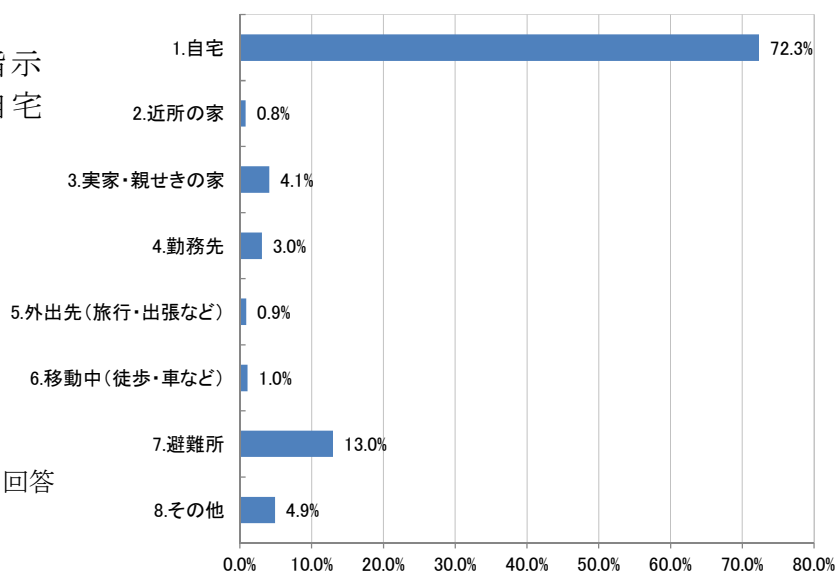
回答者の住まいの被害状況は、「5. 被害なし」が 72.1%と最も多く、次いで「半壊」が 11.5%、「4. 一部損壊」が 6.9%となっている。



※ 2 つ以上を選んだ人がいるため、回答数が回答者数を上回っている。

問 13 避難指示(緊急)や河川氾濫前の時(7月6日(金)深夜)、あなたはどちらにおられましたか。(一つに○)(n=1253)

回答者の 7 割以上が避難指示(緊急)や河川氾濫前の時、自宅にいた。

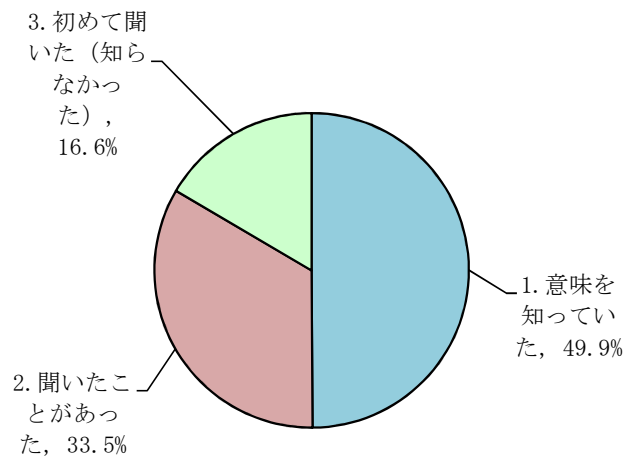


※ 2 つ以上を選んだ人がいるため、回答数が回答者数を上回っている。

問 14 総社市(岡山県)に大雨特別警報が発表されましたが、特別警報について知っていましたか。  
(一つに○)(n=1232)

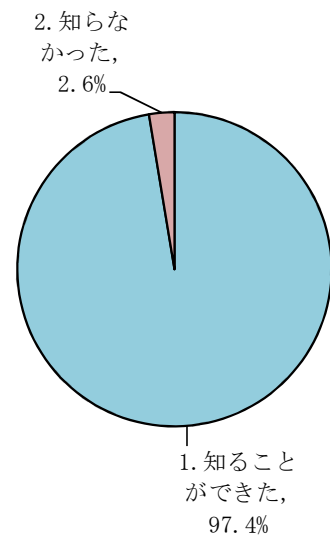
回答者のうち、大雨特別警報について、意味を知っていたのは 49.9%であり、聞いたことがあったのは 33.5%となっている。

一方で、初めて聞いた(知らなかった)が 16.6%となっている。



問 15 市は全市に避難勧告、避難指示(緊急)を発令しましたが、それを知ることができましたか。  
(一つに○)(n=1239)

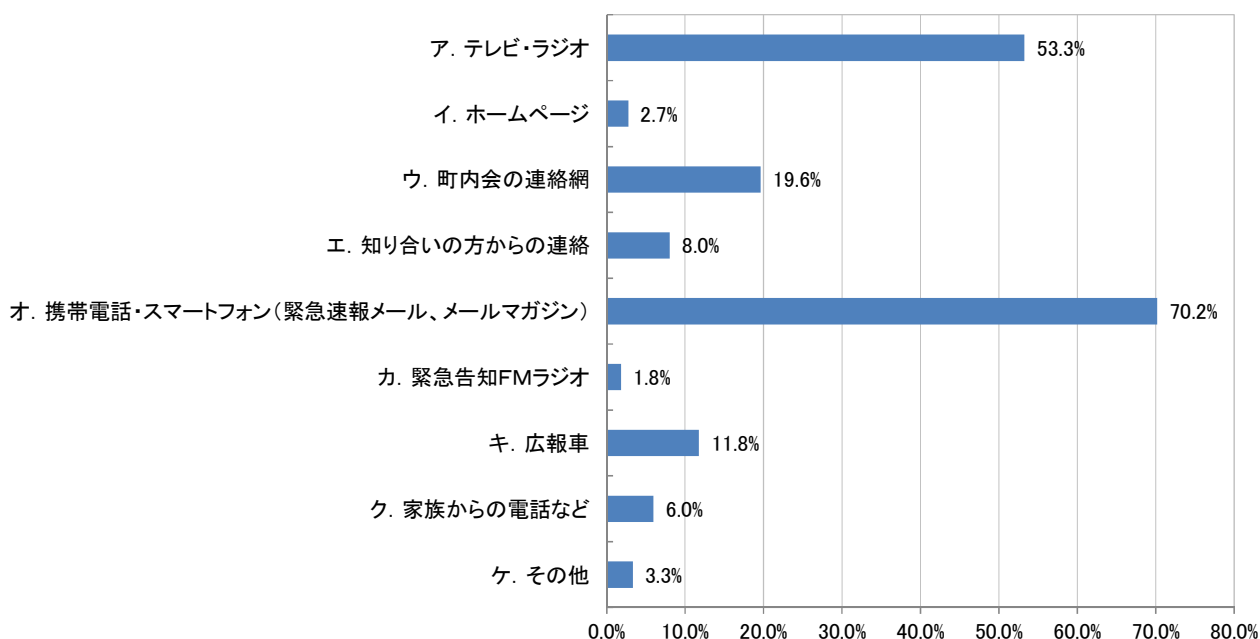
回答者のうち、9割以上が避難勧告、避難指示(緊急)の発令を知ることができていた。



問 15-1 どのような方法で知りましたか ア～カのうち、あてはまるもの全てに○をつけてください。  
(n=2133)

前問で、避難勧告、避難指示（緊急）の発令を知ることができた人（1207人）が発令を知ることができた方法として、「オ. 携帯電話・スマートフォン（緊急速報メール、メールマガジン）」が70.2%と最も多く、次いで「ア. テレビ・ラジオ」が53.3%、「ウ. 町内会の連絡網」が19.6%となっている。

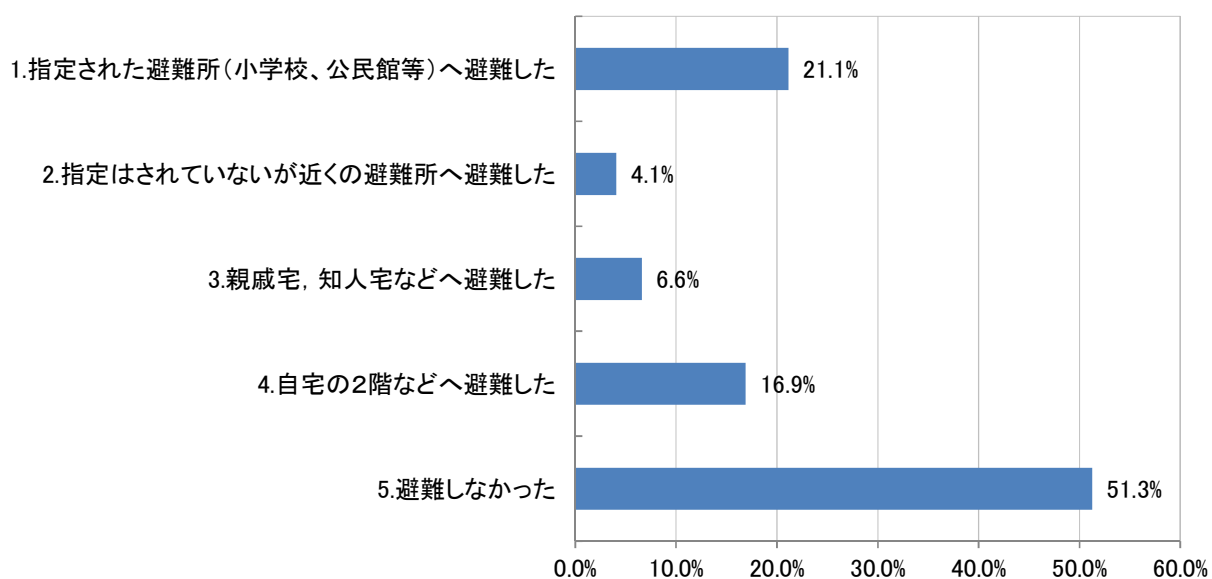
災害時の情報伝達手段として緊急速報メール、メールマガジンが有効であることが推測できる。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 16 その避難勧告、避難指示に従って避難をしましたか。(一つに○)(n=1225)

回答者のうち、「5. 避難しなかった」が51.3%と最も多く、次いで「1. 指定された避難所（小学校・公民館等）へ避難した」が21.1%、「4. 自宅の2階などへ避難した」が16.9%となっている。

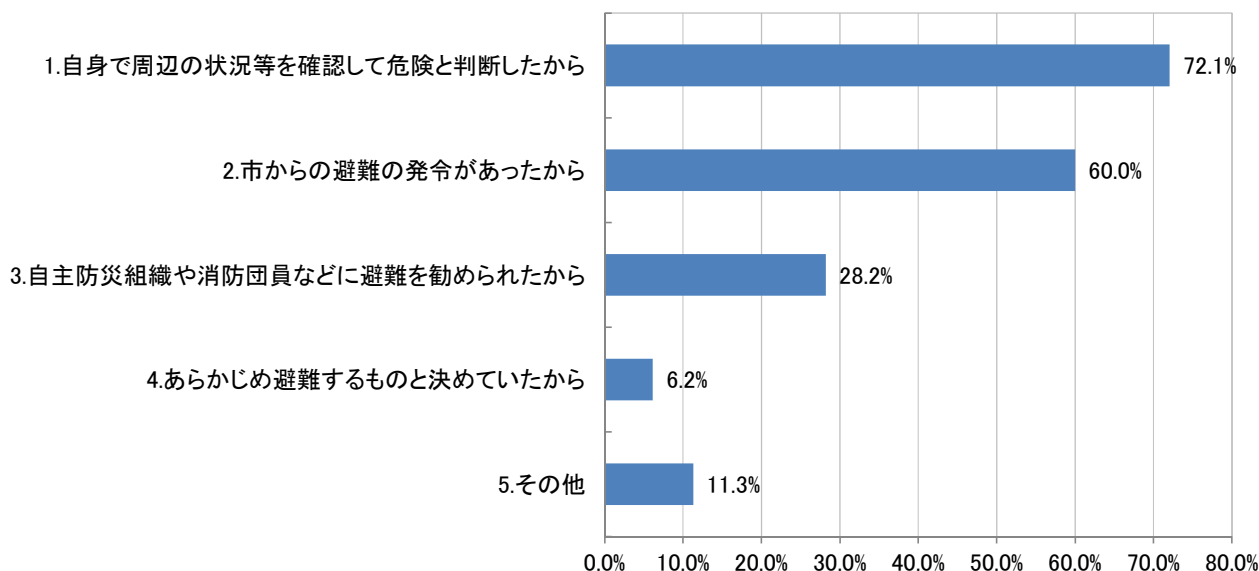


※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 17 問 16 で「1」～「3」を選択された方へお聞きします。

避難した理由は何ですか。あなたとご家族で異なる場合は、一番初めに避難した人について教えてください。(あてはまるもの全てに○)(n=693)

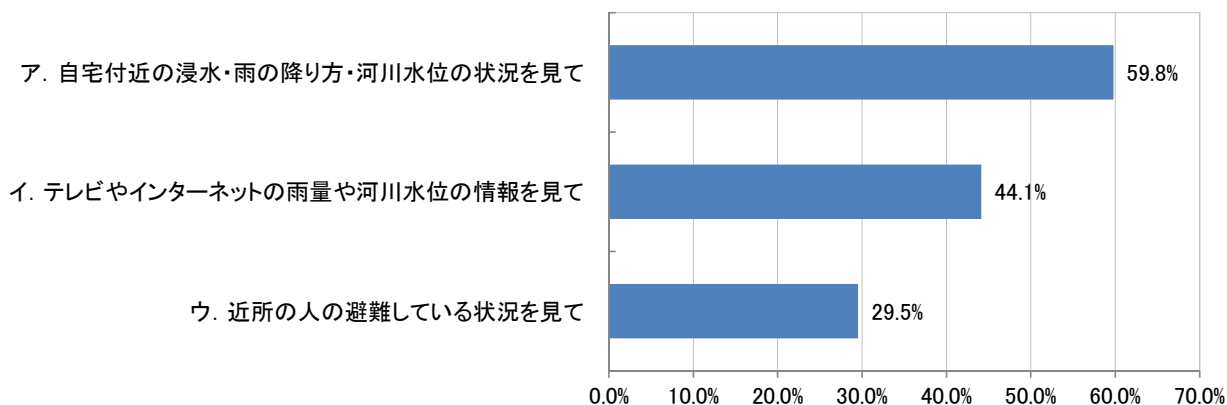
問 16 で 1～3 の自宅以外に避難した人 (390 人) の避難した理由としては、「1. 自身で周辺の状況等を確認して危険と判断したから」が 72.1%と最も多く、次いで「2. 市からの避難の発令があったから」が 60.0%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 17-1 どのような方法で確認しましたか ア～カのうち、あてはまるもの全てに○をつけてください。(n=375)

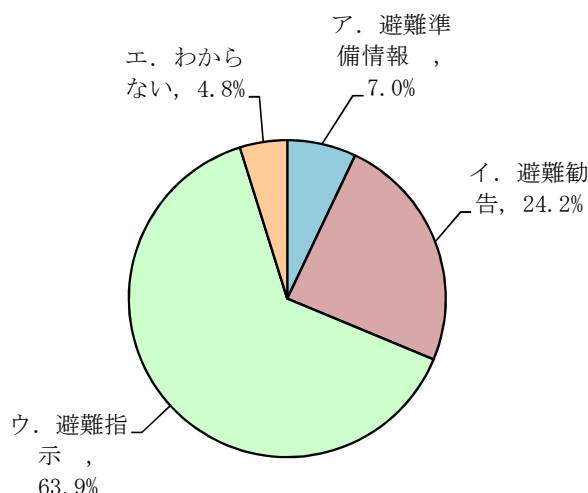
前問で、自身で周辺の状況等を確認して危険と判断して避難した人 (281 人) が危険と判断した方法としては、「ア. 自宅付近の浸水・雨の降り方・河川水位の状況を見て」が 59.8%と最も多くなっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 17-2 どの時点で避難したかア～エであてはまるものに○をつけてください。(1つに○)(n=227)

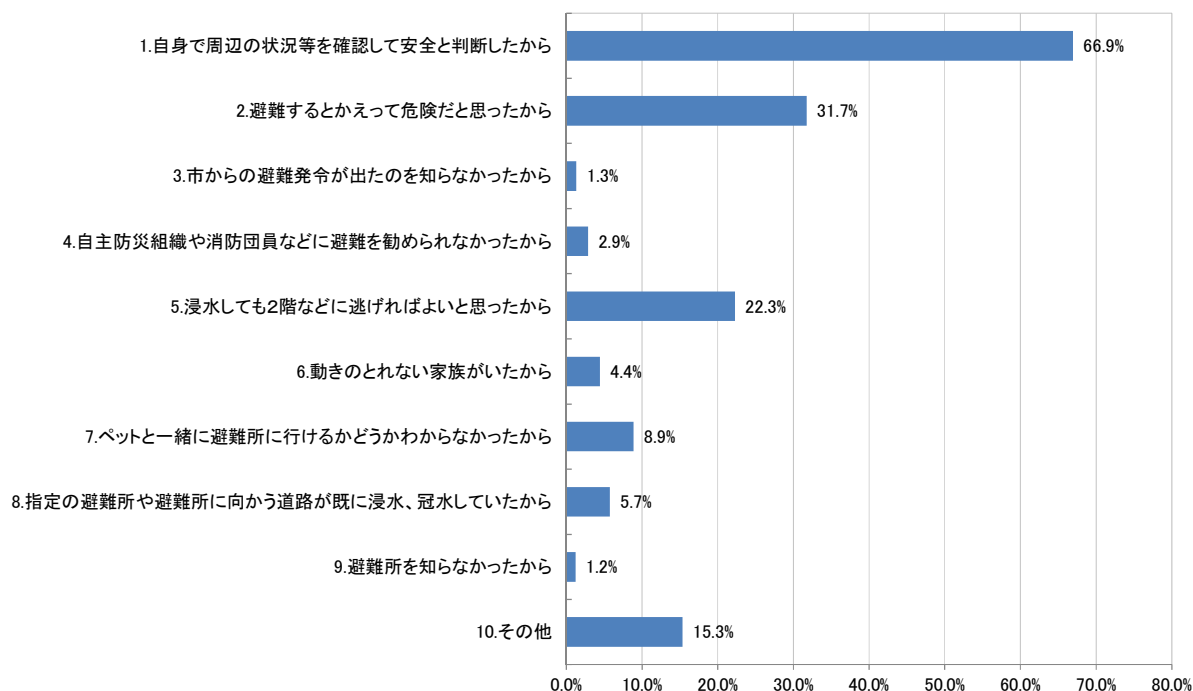
問 17 で市からの避難の発令により避難したとした人(234人)の避難した時点は、「ウ. 避難指示」が63.9%と最も多く、次いで「イ. 避難勧告」が24.2%となっている。



問 18 問 16 で「4」～「5」を選択された方へお聞きします。

避難しなかった理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)(n=1342)

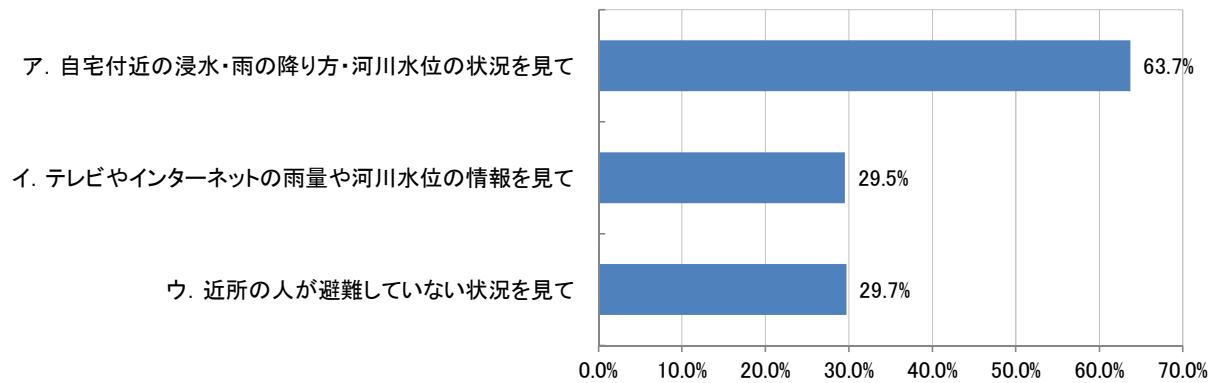
避難しなかったとした人(835人)の理由として、「1. 自身で周辺の状況等を確認して安全と判断したから」が66.9%と最も多く、次いで「2. 避難するとかえって危険だと思ったから」が31.7%、「5. 浸水しても2階などに逃げればよいと思ったから」が22.3%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 18-1 どのような方法で知りましたか ア～オのうち、あてはまるもの全てに○をつけてください。  
(n=687)

避難しなかった人のうち、自身で周辺の状況等を確認して安全と判断した人（559人）が安全を判断した方法としては、「ア. 自宅付近の浸水・雨の降り方・河川水位の状況を見て」が63.7%と最も多く、次いで「ウ. 近所の人が避難していない状況を見て」が29.7%となっている。

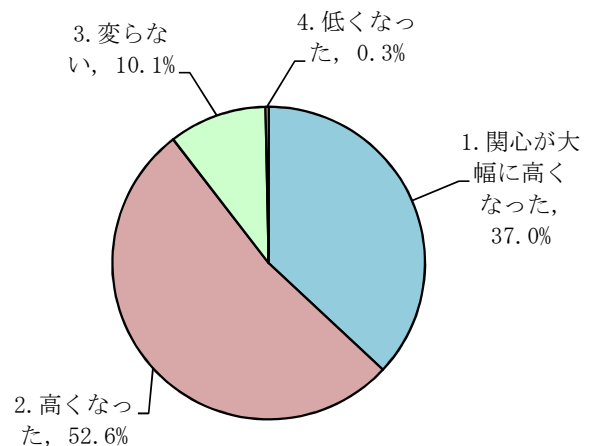


※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 19 平成 30 年7月豪雨の災害以降、あなたの防災意識に変化はありましたか。(一つに○)  
(n=1196)

回答者の防災意識の変化として「2. 高くなった」が52.6%と最も多く、次いで「1. 関心が大幅に高くなった」が37.0%となっている。

約9割の人の防災意識が高くなっている。



## IV. 総社市の今後のまちづくり、復興まちづくりについてお伺いします

問 20 以下の1～4の項目について、平成 30 年7月豪雨発生前と発生後での思いや考えをそれぞれあてはまるものに○をつけてください。(n=設問による)

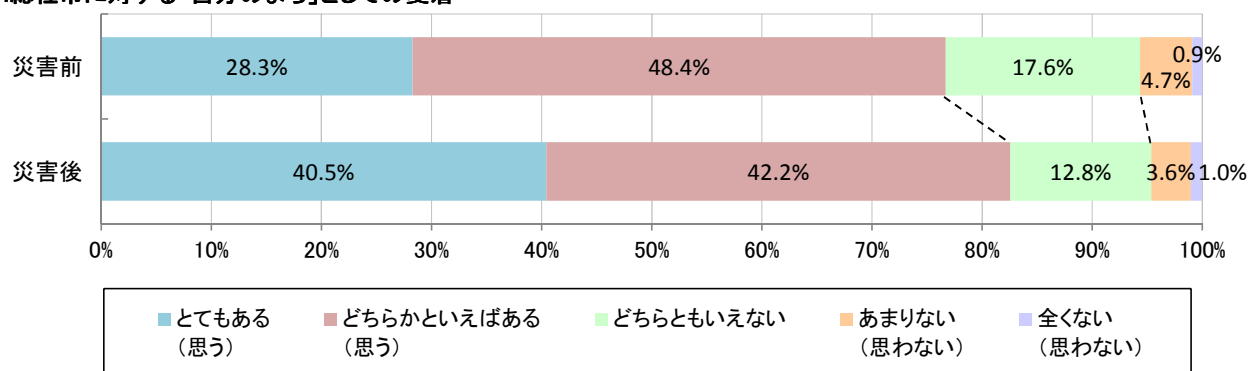
ここでは、本市で年に1回実施している第2次総社市総合計画評価・検証のための市民満足度調査(平成30年5月25日～6月25日を調査期間とし、18～75歳の男女2,000人を対象)の結果とも比較する。

### 1. 総社市に対する「自分のまちとしての愛着」

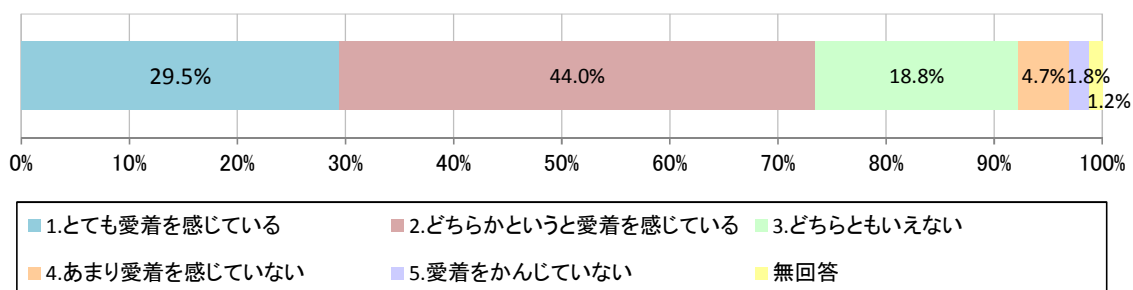
災害前後で愛着が「とてもある」と回答した人の割合が28.3%から40.5%に増加している。「どちらともいえない」、「あまりない」と回答した人の割合は減少しており、全体として愛着がある(とてもある、どちらかといえばある)人の割合が増加している。

平成30年7月豪雨災害により、総社市への愛着が高まった人の割合が増加している。また、満足度調査と比較しても、愛着が高まった人の割合が増加している。

#### 1.総社市に対する「自分のまち」としての愛着 (n=1202(災害前),1160(災害後))



#### (H30年市民満足度調査結果)総社市に対する「自分のまち」としての愛着





## 2. これからも総社市に住みたいと思うか

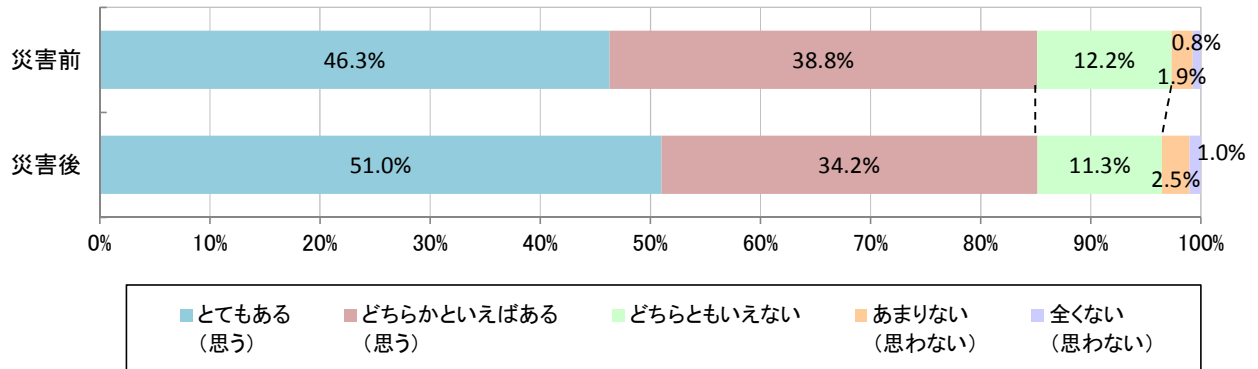
災害前後でこれからも総社市に住みたいと「とても思う」と回答した人が 46.3%から 51.0%に増加している。一方、「どちらかといえば思う」と回答した人の割合は 38.8%から 34.2%に減少している。

思う（とても思う、どちらかといえば思う）と回答した人の割合は、災害前後でも大差はないが、思わない（全く思わない、あまり思わない）と回答した人は、増加している。

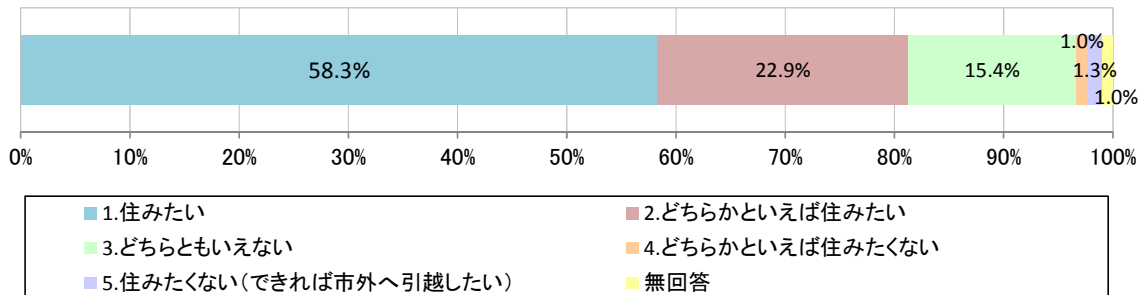
また、満足度調査と比較すると、住みたい（住みたい、どちらかといえば住みたい）とした人が増加し、住みたくない（住みたくない、どちらかといえば住みたくない）とした人も若干であるが増加している。

(n=1197(災害前),1165(災害後))

### 2.これからも総社市に住みたいと思うか



### (H30年市民満足度調査結果)これからも総社市に住みたいと思うか

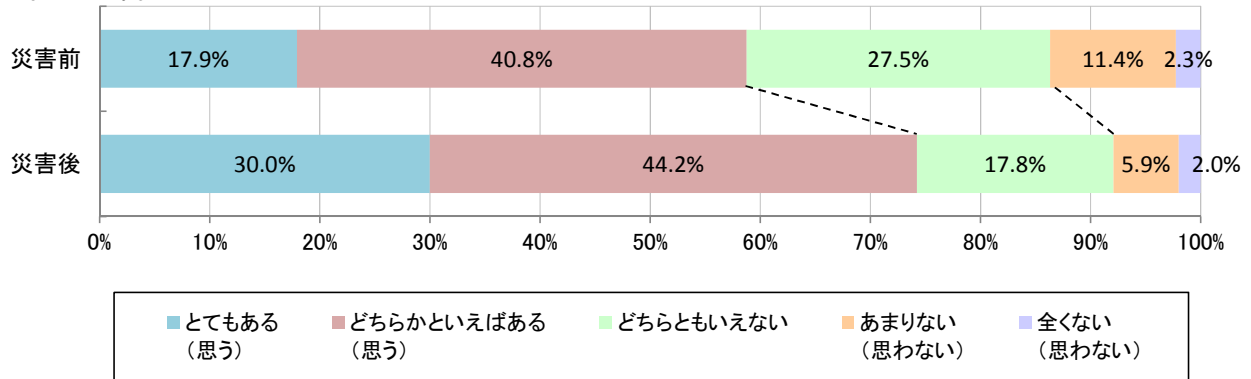


### 3. 市政への関心

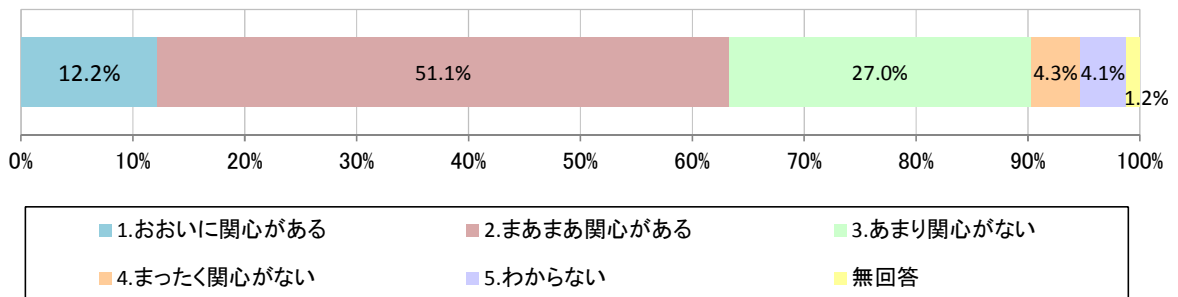
災害前後で市政への関心が「とてもある」が17.9%から30.0%、「どちらかといえばある」が40.8%から44.2%に増加しており、ある（とてもある、どちらかといえばある）が10ポイント以上増加している。一方、「あまりない」、「全くない」はいずれも減少している。

また、「どちらともいえない」が27.5%から17.8%へと約10ポイント減少していることから、平成30年7月豪雨災害と受けて、市民の市政への関心が高まっているといえる。また、満足度調査結果と比較しても、同様のことがいえる。

3.市政への関心 (n=1198(災害前),1160(災害後))



(H30年市民満足度調査結果)市政への関心



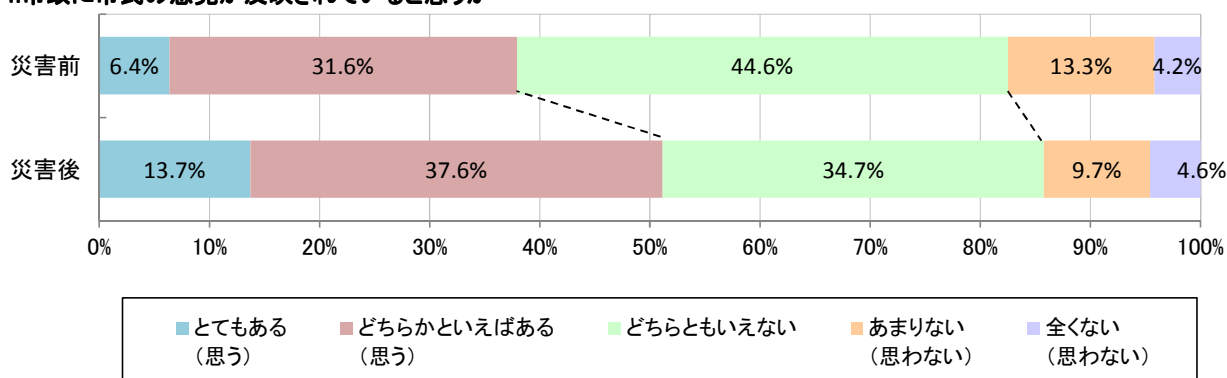
#### 4. 市政に市民の意見が反映されていると思うか

災害前後で市政に市民の意見が反映されていると「とても思う」が 6.4%から 13.7%、「どちらかといえば思う」が 31.6%から 37.6%に増加している。一方、思わない（あまり思わない、全く思わない）人は 17.5%から 14.3%へとやや減少している。

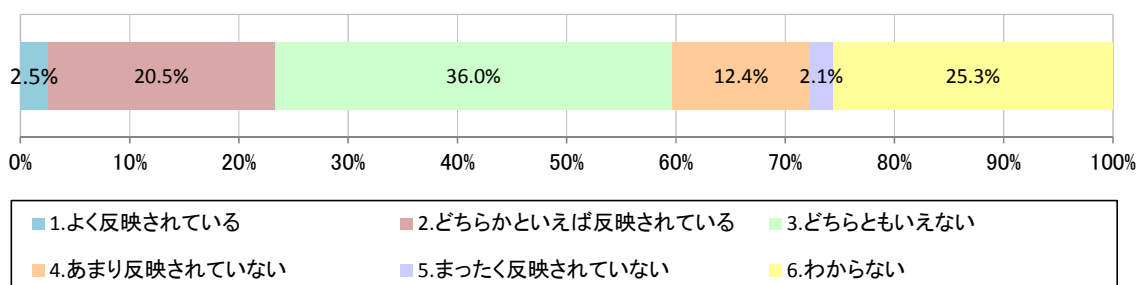
また、「どちらともいえない」が 44.6%から 34.7%へと減少していることから、平成 30 年 7 月豪雨災害を受けて、市政に市民の意見が反映されていると思う人の割合が増加している。

満足度調査結果で、反映されていない（あまり反映されていない、まったく反映されていない）とした人の割合は、今回のアンケートと大きな差がなく、反映されている（よく反映されている、どちらかといえば反映されている）の割合が増加している。

4.市政に市民の意見が反映されていると思うか (n=1195(災害前),1161(災害後))

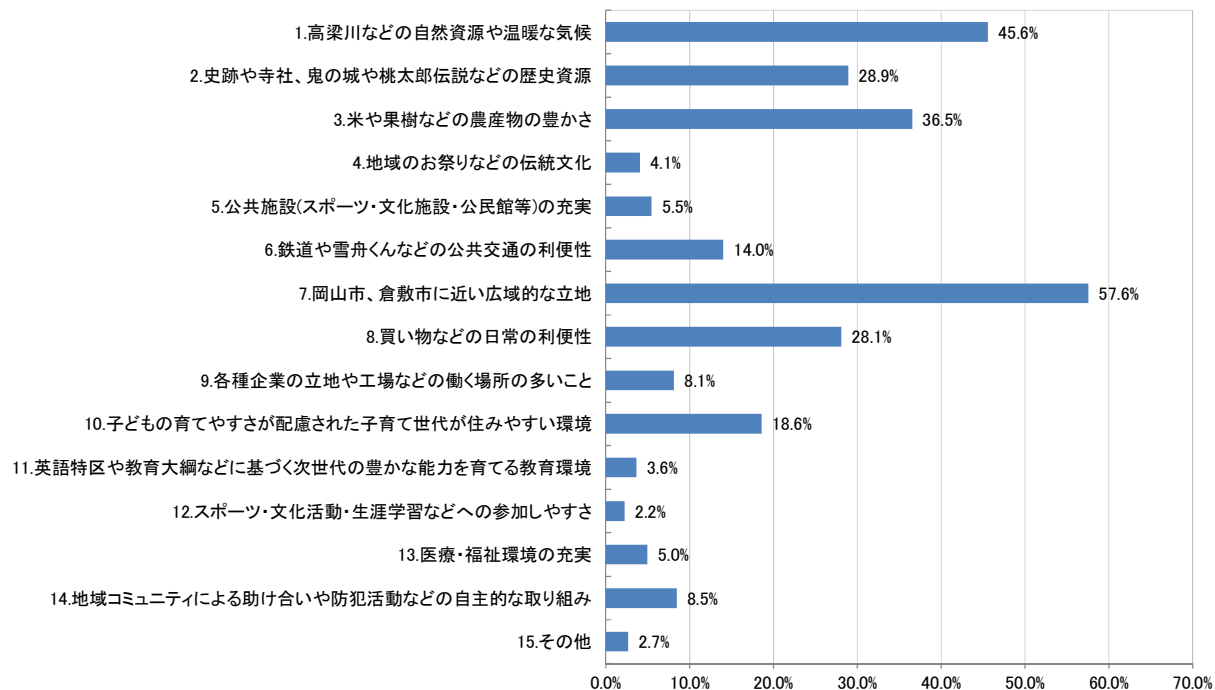


(H30年市民満足度調査結果)市政に市民の意見が反映されていると思うか



問 21 総社市の魅力だと思うこと、誇りに思うことは何ですか。(〇は3つまで)(n=3245)

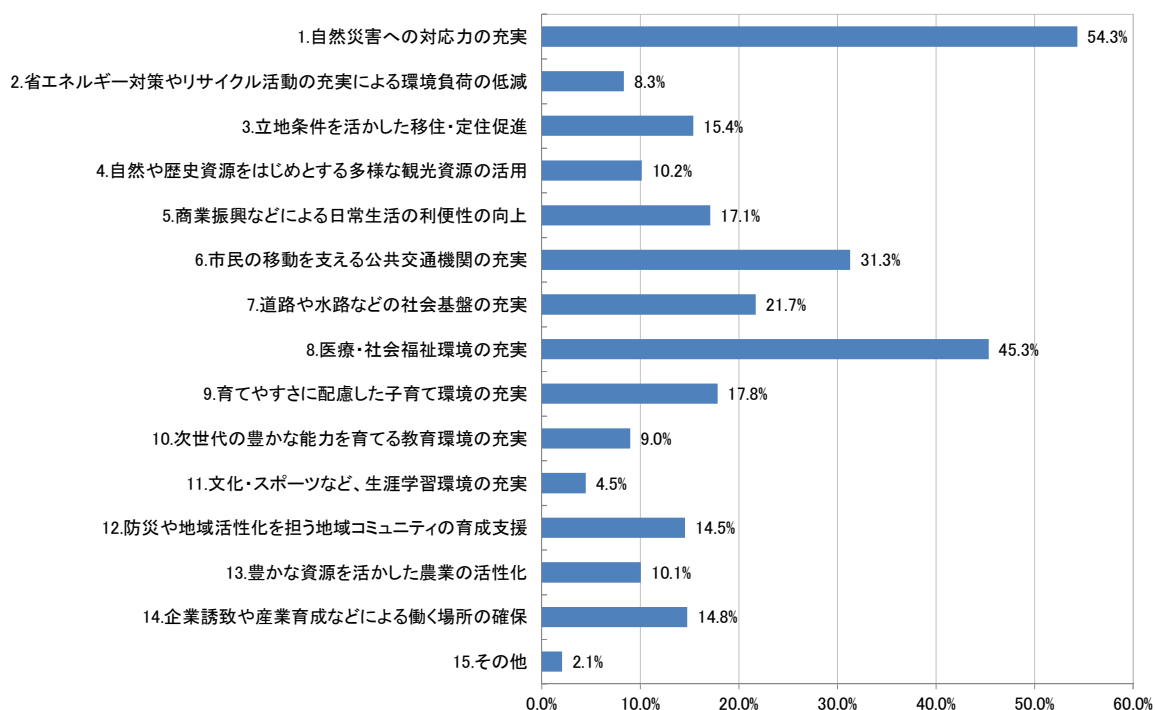
総社市の魅力だと思うこと、誇りに思うことは「7. 岡山市、倉敷市に近い広域的な立地」が 57.6%と最も高く、次いで「1. 高梁川などの自然資源や温暖な気候」が 45.6%、「3. 米や果樹などの農産物の豊かさ」が 36.5%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 22 これからの総社市の将来を見据えた創造的復興を目指すまちづくりを進めていく上で、重視すべきことがらを教えてください。(〇は3つまで)(n=3347)

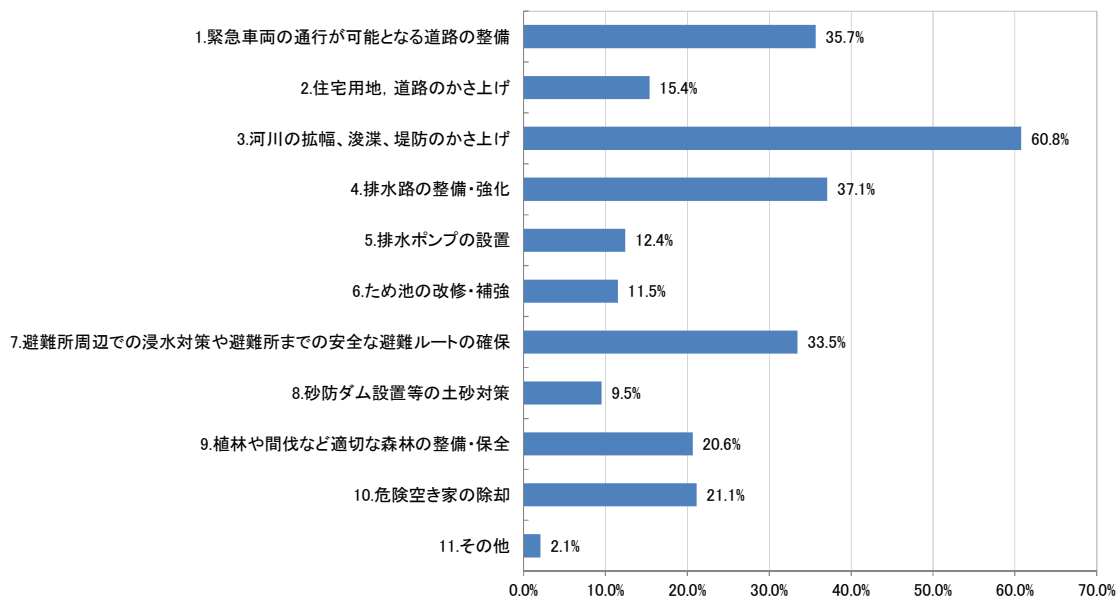
これからの総社市の将来を見据えた創造的復興を目指すまちづくりを進めていく上で、重視すべきことがらは、「1. 自然災害への対応力の充実」が 54.3%と最も多く、次いで「8. 医療・社会福祉環境の充実」が 45.3%、「6. 市民の移動を支える公共交通機関の充実」が 31.3%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 23 安全な地域づくりのために必要と考える対策(ハード対策)は何ですか。(〇は3つまで)  
(n=3158)

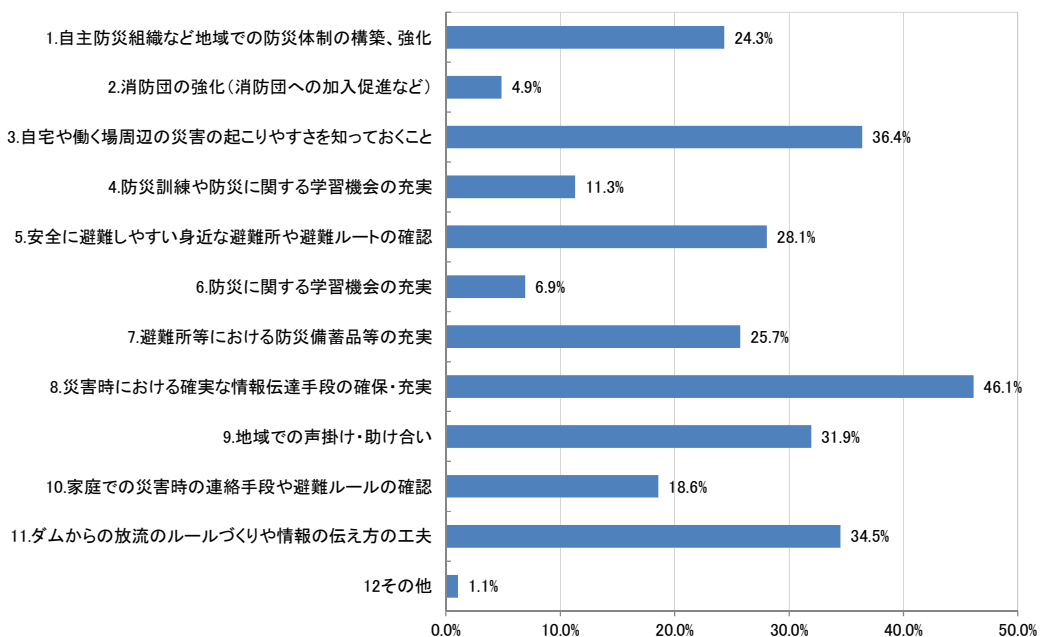
安全な地域づくりのために必要と考える対策(ハード対策)として、「3. 河川の拡幅、浚渫、堤防のかさ上げ」が60.8%と最も多く、次いで「4. 排水路の整備・強化」が37.1%、「1. 緊急車両の通行が可能となる道路の整備」が35.7%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。

問 24 安全な地域づくりのために必要と考える対策(ソフト対策)は何ですか。(〇は3つまで)  
(n=3270)

安全な地域づくりのために必要と考える対策(ソフト対策)として、「8. 災害時における確実な情報伝達手段の確保・充実」が46.1%と最も多く、次いで「3. 自宅や働く場周辺の災害の起こりやすさを知っておくこと」が36.4%、「11. ダムからの放流のルールづくりや情報の伝え方の工夫」が34.5%となっている。



※複数回答の場合、回答者数を母数としている。